

## 海の森づくり（木材増殖礁）

現在、水産庁の補助事業により、地域で産出される木材を活用した増殖礁の実証事業が全国17か所で実施されています。この事業では、増殖礁の構成要素として木材の利用割合が高く、有効な餌料生産の基盤となり、水産生物の蛸集効果が発揮される「木材増殖礁」の開発が進められています。

当センターは、実証事業を実施している各地の事業実施主体から委託を受けて、「木材増殖礁」のモニタリング調査を実施しています。モニタリング調査の内容としては、増殖礁への魚類蛸集状況調査や、木材部分における餌料動物の発生状況調査、増殖礁周辺に蛸集する魚類の胃内容物調査等を実施しています。

各地でのこれまでの調査結果からは、魚類の蛸集状況の観察とあわせて、設置後数カ月の増殖礁の木材部分において、短期間にフナクイムシ（海水中の木材に穿孔する二枚貝の仲間の動物）が大量に発生していることが確認されています。また、フナクイムシが穿孔した坑道（食害跡）の空間や朽ちた木材表皮の下などで、間隙性の甲殻類（小型のエビ・カニ類）や多毛類（イソメやゴカイの仲間）等の魚類が好む餌料動物が増加していることが分かりました。

当センターでは、今後も引き続きモニタリング調査を実施することにより、長期間の木材の耐久性や餌料出現状況などのデータを蓄積して、木材の有効性の検討に寄与していきたいと考えています。

